

2026年度

群馬大学大学院保健学研究科

**保健学実践研究力向上プログラム
(履修証明プログラム)**

募集要項



目 次

I プログラム概要・構成

1. 概要	1 頁
2. 構成	1 頁

II 募集要項

1. 募集人員	2 頁
2. 出願資格	3 頁
3. 出願資格の審査	4 頁
4. 出願受付	4 頁
5. 出願手続	4 頁
6. 履修者選抜方法	6 頁
7. 合格発表	6 頁
8. 履修手続	6 頁
9. 講習料	6 頁
10. オンライン受講	6 頁
11.科目担当教員・概要	7 頁
12.実践英語	16 頁

III 出願書類

- ・履修申請書（様式 1）
- ・履歴書（様式 2）
- ・履修承諾書（様式 3）
- ・志望理由書（様式 4）
- ・研究歴等報告書（様式 5）
- ・入学資格審査申請書，履歴事項（様式 6-1， 6-2）
- ・研究歴・就業歴等報告書（様式 7）

I プログラム概要 ・ 構成

1. 概要

本プログラムでは、地域の保健医療施設などで勤務している看護師、保健師、助産師、作業療法士、理学療法士、臨床検査技師などを対象に、実践における研究力を高めるためのプログラムを構築し、実践で研究を活用できる人材を育成します。

2. 構成

本プログラムは研究基礎編、研究応用編で構成され、下記の「1）内容」を実践できる人材を、「2）授業の方法」により養成し、「3）修了要件」を満たした者に履修証明書を交付するものです。

1) 内容

1. 研究を実践の場で活用し、実践の質を向上させることができる
2. 実践で生じた疑問や課題を、研究によって解決することができる
3. 研究に関する専門的な知識を身に付け、研究指導ができる

2) 授業の方法

4月から開講し、仕事と学業が両立しやすいようオフキャンパス・セルフラーニング、E-learning、e-メール指導、OJT、夜間・土日の講義で行います。学修期間は最長2年間です。

3) 修了要件

研究基礎編として各特論のうち15時間（10コマ）、研究応用編として各演習のうち15時間（10コマ）、各特別セミナー22.5時間（15コマ）、及び実践英語24時間相当（48レッスン以上）の計76.5時間以上を履修すること。

ただし、次の条件をすべて満たすこと。

1. 特論、演習、特別セミナーは1科目ずつ履修すること
2. 実践英語は1年間で履修すること
3. 特別セミナーの単位取得を希望する場合は1年間で履修すること
4. すべての科目を2年以内に修了すること

4) 履修科目の内容

1. 特論

群馬大学大学院保健学研究科博士前期課程在学生在が 1 年次前学期に履修する科目であり、研究の基礎を学ぶものです。在 student と一緒に受講します。履修を希望する科目の教員へ事前に受講許可を得たうえで、全 15 コマのうち 10 コマ以上を受講してください。なお、受講するコマについては教員と相談の上決めてください。本科目は年度をまたいでの受講が可能です。

2. 演習

群馬大学大学院保健学研究科博士前期課程在学生在が 1 年次後学期に履修する科目であり、演習を行うものです。在 student と一緒に受講します。履修を希望する科目の教員（「特論」の担当教員と同一教員としてください）へ事前に受講許可を得たうえで、全 15 コマのうち 10 コマ以上を受講してください。なお、受講するコマについては教員と相談の上決めてください。本科目は年度をまたいでの受講が可能です。

3. 特別セミナー ※単位認定可（2 単位）

看護学、生体情報検査科学、リハビリテーション学の各領域における最新の研究を紹介し、保健学の動向、進展状態を把握し、保健学分野における新たな研究の進め方を思考するものです。在 student と一緒に受講します。土日開講のものが多いため、受講の際はスケジュールをよくご確認ください。

本科目については、15 コマ（22.5 時間）の受講が必要です。**単位認定を希望する場合は、一年度内に全て受講し、課題を提出することが必須**となります。1 年次に履修するか、2 年次に履修するかは入学後に選択いただきます。単位認定を希望しない場合は、年度をまたいでの受講が可能です。

4. 実践英語

e-learning 教材を使用し、各自学習を進めるものです。全 50 レッスン中 48 レッスン以上を修了してください。レッスン受講後に教材内の TOEIC 模擬テストを必ず受験してください。

アカウント情報は年度をまたいで使用することはできませんので、**必ず一年度内に全て受講・受験**してください。1 年次に履修するか、2 年次に履修するかは入学手続き時に選択いただきます。

II 募集要項

1. 募集人員 5 名

※出願に当たっては、出願前に指導を受けようとする科目担当教員（p 6～p 11）に連絡を取り、授業計画について必ず相談してください。

2. 出願資格

群馬大学大学院学則第 26 条第 1 項 1 号から第 10 号のいずれかに該当し、下記の事項を満たす者。

1. 3 年以上の実践経験を有し、現職場に 1 年以上勤務していること。
2. 職場等からの承諾があること。
3. 研究の経験があること、研究に携わる予定があること、または研究への意欲があること。

●群馬大学大学院学則第 26 条 第 1 項

修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 102 条第 2 項の規定により本大学院以外の大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達したもの

3. 出願資格の審査

群馬大学大学院学則第 26 条の (9), (10) の規定により出願しようとする者は、出願に先立ち次により本大学院の行う入学資格の審査を受け、出願資格を有する旨の通知を受けた者のみが出願することができます。

審査は、保健学研究科博士前期課程の教育を受ける基礎学力及び大学を卒業した者と同等以上の学力の有無を中心に審査を行います。保健・医療・福祉分野での学会発表や論文発表を筆頭著者として行っていること、又は、各職域や学会で認定されている資格を有することなどを基準として、申請者個々について総合的に判断します。必要がある場合は面接も行います。

ア 提出期限

2025 年 9 月 1 日(月)から 2025 年 9 月 5 日(金)午後 5 時(必着)

イ 提出書類

- ① 群馬大学大学院学則第 26 条の (9) に関わる審査の場合
 - (ア)入学資格審査申請書(本要項添付の用紙(様式 6-1, 6-2))
 - (イ)成績証明書(出身大学(学部)の成績証明書と当該大学の教育課程が明記されている書類(履修手引等)を併せて提出のこと)
 - (ウ)在学証明書(在学中の大学院の長が作成したもので、入学年月日が明記されたもの。なお、大学院を修了又は退学した者は、入学年月日の明記された書類(出身大学院の成績証明書等)を提出のこと)
 - (エ)研究業績又はその他業績がある場合は、その業績(論文、学会抄録等)
- ② 群馬大学大学院学則第 26 条の (10) に関わる審査の場合
 - (ア)入学資格審査申請書(本要項添付の用紙(様式 6-1, 6-2))
 - (イ)研究歴・就業歴等報告書(本要項添付の用紙(様式 7))
 - (ウ)研究業績又はその他業績がある場合は、その業績(論文、学会抄録等)
 - (エ)最終学校(短期大学、専修学校又は各種学校等)の卒業又は修了証明書
 - (オ)最終学校(短期大学、専修学校又は各種学校等)の成績証明書
- ③ 提出先
群馬大学昭和地区事務部学務課大学院係
〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号
- ④ 審査結果
2025 年 10 月 17 日(金)までに、志願者本人に通知書を郵送いたします。

4. 出願受付

2025 年 10 月 20 日(月)から 2025 年 10 月 24 日(金)午後 5 時(必着)とします。

(注) 出願期間を過ぎた場合には受理しませんので、郵送期間を十分に考慮して早めに送付してください。

5. 出願手続

志願者は、次の出願書類等を封筒の表に「群馬大学大学院保健学研究科保健学実践研究力向上プログラム願書在中」と朱書きし、昭和地区事務部学務課大学院係宛てに簡易書留により送付してください。

出願書類等（英語以外の外国語によるものは、英語訳または日本語訳をつけてください。）

書 類 等	提出該当者	摘 要
1 出願書類 チェックシート	出願者全員	本学所定様式のもの。 提出書類を確認し、チェックを入れた上で提出してください。
2 履修申請書 (様式 1)	出願者全員	本学所定様式のもの。 シラバス等を確認の上、希望する「特論」「演習」の科目担当教員へ事前に履修許可を得てください。
3 履歴書 (様式 2)	出願者全員	本学所定様式のもの。
4 履修承諾書 (様式 3)	出願者全員	本学所定様式のもの。
5 志望理由書 (様式 4)	出願者全員	本学所定様式のもの。
6 研究歴等報告書 (様式 5)	出願者全員	本学所定様式のもの。 研究活動を確認できる書類がある場合は、必ず添付してください。 なお、入学資格審査を事前に受けた者で、出願資格を有する旨の通知を受けた者は提出不要です。
7 最終学歴の卒業証明書	大学等を卒業した者	出身校の長が作成したもの。 なお、入学資格審査を事前に受けた者で、出願資格を有する旨の通知を受けた者及び群馬大学医学部出身者は提出不要です。
8 出願資格審査結果 通知書（コピー可）	出願資格(9), (10)に該当する者	入学資格審査を事前に受けた者で、出願資格を有する旨の通知を受けた者は提出してください。
8 検定料 9,800 円	出願者全員	銀行振込。(振込手数料はご本人様負担となります。) 振込を証明する利用明細等のコピー（A4 の用紙に貼り付けたもの）を提出してください。 振込先：以下のいずれかの口座にお振込みください。 ①東和銀行 前橋北支店（普通）3169574 ②三井住友銀行 前橋支店 （普通）5062657 ③群馬銀行 豎町支店 （普通）1186984 受取人名：グンマダイガク

注 1 卒業証明書の姓が旧姓となっている場合は、現在の姓との関係が証明できる公的文書（戸籍抄本等）を添付してください。

注 2 出願書類受理後は、出願書類の内容の変更は認めません。

注 3 受理した出願書類は、理由のいかんに関わらず返還しません。

注 4 出願書類の記載事項に事実の相違が判明した場合は、履修の許可を取り消す場合があります。

注 5 出願資格の確認に関し、本学が必要と認めた場合は、上記以外の書類の提出を求めることがあります。

＜出願書類等の提出先＞

群馬大学昭和地区事務部学務課大学院係

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号

6. 履修者選抜方法

志願者が提出した志望理由書等の出願書類を総合して判定します。

7. 合格発表

2025 年 12 月 8 日(月)付けで、志願者本人に通知書を郵送いたします。可否についての電話による問合せには、応じません。

8. 履修手続

合格者は、「合格通知書」とともに同封する「履修手続案内」を読んで、
1) 履修手続に必要なものを取りそろえ、2) 履修手続期間に、3) Google フォーム及びメールで手続をしてください。

1) 履修手続に必要なもの

- ①連絡用メールアドレス ②「実践英語」受講年次申請
- ③学生証用写真データ

2) 履修手続期間

2025 年 12 月 18 日(木)まで

3) 手続方法

- ①及び②は、Google フォームへ回答
- ③は、メールにて kk-mgakumu6@ml.gunma-u.ac.jp へ提出

9. 講習料

入学料	なし
講習料	38,250 円 (76.5 時間分)

- 1) 講習料は、「履修手続案内」の記載に従って、指定の期日までに一括納付してください。納付がない場合は、履修許可を取り消すことがあります。
- 2) 既納の講習料は、特別の事情があると認めた場合を除き、返還しません。

10. オンライン受講

本プログラムでは、e-learning 教材を用いた授業を必須としています。各自パソコンとネットワーク環境を準備してください。(パソコンの貸し出しはありません。) なお、オンライン受講に係る機材、通信料等に要する費用は履修生の負担とします。

11. 科目概要：担当教員

※2025年度の教員，概要です。2026年度に担当教員が変わる科目がありますので，個々の科目の問い合わせに応じられない場合もあることを予めご了承ください。

*印がある教員は，2026年3月31日退職予定です。

**印がある教員は，2027年3月31日退職予定です。

シラバス検索ページ



※シラバスも併せてご確認ください。

シラバス検索用 URL : <https://www.kyomu-sys.gunma-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>

領域	授業科目	2025年度担当教員	連絡担当教員メールアドレス @以下に gunma-u.ac.jp をつけてください	授業科目の概要
看護学領域	看護学特別セミナー	看護学領域教務委員，他 非常勤講師	大庭 志野 oba@	看護学分野から当該領域の最新の研究を紹介し，看護の動向，進展状態を把握させ，看護学分野における新たな研究の進め方を学生とともに思考する。
	基礎看護学特論	上星 浩子 小澤 厚志	上星 浩子 hiroko-jo@	科学的根拠に基づいた看護実践を展開するための方法論を教授する。さらに看護実践の基本となる看護介入法についての最新の知見と新たな介入法の開発の課題について教授する。 また，科学的根拠に基づいた看護実践を展開するための研究方法論を教授する。
	基礎看護学演習	上星 浩子 小澤 厚志	上星 浩子 hiroko-jo@	基礎看護学領域に関する文献クリティークから，研究目的と意義を明確化するとともに，既存の研究との関連や適切な研究デザインについての検討を行う。さらに看護介入や看護実験の活用と評価および研究開発法について演習する。 研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を实际的に理解し，個別の具体的な課題に関する研究計画書を作成する。
	看護管理学特論	恩幣 宏美	恩幣 宏美 sanaki@	看護管理に必要な諸理論やマネジメント，スキルなどの知識体系について総合的に教授する。また，国内外における看護管理に関する課題を科学的に探求し，効果的な管理方法につなげるための研究手法についても教授する。
	看護管理学演習	恩幣 宏美	恩幣 宏美 sanaki@	看護管理学領域における国内外の文献レビューと討論から，自己の研究課題を明らかにした上で，課題に則した研究手法の選択と研究計画を検討し，研究計画書を作成する。
	精神看護学特論	近藤 浩子 金泉 志保美 牧野 孝俊 八木原 ひなた	近藤 浩子** hirokok@	精神看護領域における研究の方向性を探求するために，メンタルヘルスに関する国内外の文献抄読を通して今日的課題を概観する。またメンタルヘルスの保持増進および精神的健康問題をもつ人への支援に活用される主な療法等について，その理論的根拠を踏まえて学ぶ。

看護学領域	精神看護学演習	近藤 浩子 八木原 ひなた 中村 美香	近藤 浩子** hirokok@	精神看護学に関する看護実践や文献クリティーク等から研究課題を見出し、その研究の目的と意義を明確化するとともに、既存の研究との関連や適切な研究デザインについての検討を行う。
	慢性看護学特論	岡 美智代 大山 良雄 金泉 志保美 高橋 さつき 松本 光寛	岡 美智代 michiyouka@	慢性病者や家族における看護の指針を考えるために以下の教育を行います。 1)慢性病の特徴や慢性病者や家族が抱える複雑で解決困難な問題と背景に関する慢性看護学の専門分野に関する教育。 2)慢性病者や家族が抱える複雑で解決困難な問題の解決のための慢性病者の行動理解と療養支援に活用される概念や諸理論に関する能力を育成する教育。
	慢性看護学演習	大山 良雄 岡 美智代 高橋 さつき 松本 光寛	岡 美智代 michiyouka@	慢性病を持つ成人・家族研究に関連した国内外文献を講読、討論し、慢性病患者を支援する新たなパラダイムについて探求すると共に、自己の研究課題の探求、研究計画を作成する。
	がん看護学特論	近藤 由香 京田 亜由美 塚越 徳子 瀬沼 麻衣子 (CNS 非常勤講師) 角田 明美 北田 陽子 廣河原 陽子 金城 妙子 松本 幸姫	近藤 由香 yukondo@	がんサバイバーの複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供出来るよう、地域連携、多職種連携などの看護の方法について学ぶ。診断・治療の情報を基に、がん診断・治療選択・予後告知時の看護、初期治療(薬物・放射線・手術等)に伴う看護から End of Life Care までの身体管理、看護ケアの概要を学ぶ。国内外の文献抄読と討論により最新情報を習得し、がん看護高度実践看護師が対象者に提供する看護について探求する。
	がん看護学演習	近藤 由香 京田 亜由美 塚越 徳子 瀬沼 麻衣子	近藤 由香 yukondo@	がん看護に関する課題を把握し、文献のクリティークを行う。がん看護相談、実践を通じて深めた研究課題について文献を講読し、各自の研究の意義と目的を明確化する。さらに研究計画書を作成し、発表、討議を行い、自己の課題へのアプローチ法を探求する。
	母性看護学特論 I	新井 陽子 篠崎 博光 國清 恭子 深澤 友子 齋藤 明香 (医学系研究科) 北原 慈和 (ダイバーシティ推進センター) 林はるみ (CNS 非常勤講師) 安藤 智子	新井 陽子 yk-arai@	周産期にある母子と家族に影響を及ぼす因子を理解し、対象理解の諸理論に基づく生活反応・健康状態・適応状態の臨床判断に必要な遺伝学的知識、生殖内分泌学的知識、周産期医学的知識、愛着や親役割理論を学ぶ。また、思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康生活及び健康問題の特性を理解し、生活反応・健康状態・適応状態の臨床判断に必要な女性医学の知識、人間発達学的知識を学ぶ。

看護学領域	母性看護学・助産学演習	新井 陽子 篠崎 博光 國清 恭子 深澤 友子 齋藤 明香	新井 陽子 yk-arai@	母性看護学・助産学領域におけるウィメンズヘルスや周産期における母子とその家族への看護実践や文献等から研究テーマ（課題研究テーマ）を見出し課題に則した研究デザイン，研究計画を検討し，研究計画書および倫理審査書類を作成する。さらに，専門領域の看護活動推進のために実践的な研究アプローチの方法とその活用について学ぶ。
	小児看護学特論	金泉 志保美 牧野 孝俊 近藤浩子	金泉 志保美 kanaizumi@	多様な健康・看護ケアニーズをもつ子どもと家族のQOLの向上を目指して，小児看護学の専門性と今日的な課題について追及するとともに，その具体的な援助方法のあり方を検討する。さらに，近年の小児看護学領域における研究動向（在宅・地域支援）から今後の研究の方向性を探求する。
	小児看護学演習	金泉 志保美 牧野 孝俊	金泉 志保美 kanaizumi@	多様な健康・看護ケアニーズをもつ子どもと家族のQOLの向上を目指して，小児看護学の専門性と今日的な課題について追及する。さらに，近年の小児看護学領域における研究動向（在宅・地域支援）を踏まえ，その具体的な援助方法のあり方を実証的に検討する。
	老年看護学特論	内田 陽子 梨木 恵実子 伊東 美緒 （CNS 非常勤講師） 齊田 綾子 河端 裕美	内田 陽子 yuchida@	老年看護の諸理論（ケアマネジメント・セルフケア・ヘルスプロモーション理論等），倫理（倫理原則・アドボカシー等），専門看護師の役割・機能と老年看護に求められる研究について学ぶ。
	老年看護学演習	内田 陽子	内田 陽子 yuchida@	病院・施設，在宅における高齢者，家族への看護実践や文献等から老年看護学領域の研究テーマ（課題研究テーマ）を見出し，テーマに則した研究デザイン，研究計画を検討する。専門領域の看護活動推進のために実践的な研究アプローチの方法とその活用について学ぶ。
	在宅看護学特論	牛久保 美津子 佐藤 由美 内田 陽子 近藤 浩子 柏瀬 淳	牛久保 美津子* ushi2@	地域共生社会実現をめざす中で，在宅ケアに関する基礎的知識を修得するとともに，最新の動向と課題，切れ目のない在宅療養支援における看護のあり方，有機的な多職種連携や課題解決を探究する力を養う
	在宅看護学演習	牛久保 美津子	牛久保 美津子* ushi2@	在宅療養者のQOLを高めるために必要不可欠な在宅看護学分野に関する基礎的知識と，在宅ケアを視野に入れた実践の質的向上をはかるための知識・技術を幅広く修得する。
	地域看護学特論	佐藤 由美 石川 麻衣	佐藤 由美 satoy@	我が国の保健師制度と教育の変遷・動向から，地域看護学の専門性と課題について教授する。また，地域看護活動の実践とその評価における研究の意義を教授し，最新の地域看護学領域における研究の実際から地域看護学研究の方向性を探求する。
	地域看護学演習	佐藤 由美 石川 麻衣	佐藤 由美 satoy@	地域看護学領域における研究課題の明確化と，研究課題を達成するための研究計画作成のプロセスを教授する。

看護学領域	国際看護学特論	辻村 弘美	辻村 弘美 tujimura@	国際保健医療における国際看護活動，国際看護協力の参画や開発途上国における看護教育の支援等について教授する。国際看護学領域における最新の研究や教育の実際から国際看護学研究の方向性を探求する。
	国際看護学演習	辻村 弘美	辻村 弘美 tujimura@	国際看護学や国際保健医療に関する論文を抄読することにより，国際的な研究の動向やその研究方法について探求する。また，国際看護学における研究課題や研究計画書の作成について教授する。
	生活習慣病疫学特論	大庭 志野	大庭 志野 oba@	科学的なエビデンスに基づき，様々な生活習慣病の対策に役立つ疫学研究の方法論について，英文講読を行う。また，主要な英文の疫学論文の読解を通して，批判的吟味について学ぶ。疫学研究の実践に必要な基盤となる知識を指導する。講義，発表，討論を通して理解を深める。発表も含めて授業を英語で行う場合がある。
	生活習慣病疫学演習	大庭 志野	大庭 志野 oba@	生活習慣病の予防及びその社会的なコントロールに資する疫学研究を実施する事を目的として，その達成に必要な文献検索とレビューの方法，自己研究課題の設定方法，研究法の吟味，研究計画書の執筆方法と倫理的な配慮等について演習を行う。研究に用いる数量データの管理と分析に有用な技法の検討を指導する。
生体情報検査科学領域	生体情報検査科学特別セミナー	生体情報検査科学領域教員	齊尾 征直 saio@	生体情報検査科学教員から当該領域の最新の研究を紹介し，保健学の動向，進展状態を把握させ，保健学分野における新たな研究の進め方を学生とともに思考する。 中村，齋藤，齊尾，多胡，徳舩 教授， 柴田，松井，豊村 准教授，西島 講師
	分子情報分析科学特論	多胡 憲治 柴田 孝之 （生体調節研究所） 畑田 出穂 堀居 拓郎 小林 雅樹 伊藤 道俊 （医学系研究科） 大日方英 今野歩 （食健康科学研究科） 大西 浩史 （非常勤講師） 村田 陽二 木村 鮎子 多胡 めぐみ 奥西 勝秀	多胡 憲治 ktago@	生体構成成分の微量分析技術や細胞内におけるホルモン等の情報伝達機構，ヒトゲノム解析の進捗状況，新たに開発されつつある遺伝子検査技術等について教授する（オムニバス方式）。 1）メタボローム解析に用いられる分析化学技術について，代表的な生体分子を例に挙げ教授する。 2）タンパク質を中心にシグナル伝達に関わる機能分子の研究手法と成果について講義する。 3）ゲノム解析・エピゲノム解析に用いられる基礎技術と臨床検査への応用について教授する。

生体情報検査科学領域	分子情報分析科学演習	多胡 憲治 柴田 孝之 （生体調節研究所） 畑田 出穂 森田 純代 大橋 一登 山岸 玄記 （医学系研究科） 南嶋 洋司 鈴江 一友 （食健康科学研究科） 大西 浩史 （非常勤講師） 村田 陽二 多胡 めぐみ 奥西 勝秀	多胡 憲治 ktago@	生体内で情報伝達に関与する生体成分の分析技術とその情報源となる遺伝情報解析技術の両面からの演習を行う（オムニバス方式）。 1）生体分析化学における応用技術の修得を目的として、医療・診断に関わる分子群を例に挙げ、測定法から試料調製法までの細部に亘り演習する。 2）細胞のシグナル伝達システムの分子レベルでの解析・研究法について論文講読を中心とした演習を行う。 3）ゲノム解析・エピゲノム解析について関連の論文講読により演習する。
	機能情報解析学特論	中村 和裕 松井 弘樹	中村 和裕 knakamur@	神経、循環器疾患等における機能情報を把握するための新しい解析技術について講義し、臨床検査への多様な応用について教授する。 （オムニバス形式） （松井准教授） 心疾患の基本となる心臓と心筋細胞の構造および刺激伝達系と電気生理学について教授する。 （中村教授） 中枢および末梢神経系の基本的な解剖、生理機能を解説し、脳の病気、特に神経変性疾患における病態、現在までの治療法を講義する。
	機能情報解析学演習	中村 和裕 松井 弘樹	中村 和裕 knakamur@	神経、循環器疾患の病態生理に関する内外の研究論文を講読し、特論での講義内容の理解と応用を深め、研究の基礎的知識を得る。 （オムニバス形式） （横山教授・松井准教授） 心不全の発症機序と臨床的評価法・検査法および治療法に関して英文文献を購読し、特論での講義内容の理解と応用を深め、研究に対する基礎的知識を修得する。 （中村教授） 前期特論での成果を更に発展させるために、学術論文のデータ解釈を深く行う。
	組織・細胞情報解析学特論	齊尾 征直 西島 良美	齊尾 征直 saio@	種々の疾患病変部に生じている病理学的変化について免疫組織学的染色法を中心とした検査法を用いた形態像及び病態の補足法と解析法について教授する。

生体情報検査科学領域	組織・細胞情報解析学演習	齋藤 貴之 齊尾 征直	齋藤 貴之 tsaitoh@	変性, 炎症, 循環障害, 腫瘍に生じている病態情報を組織学的に解析するために, 内外の文献を講読, 演習する。また, 血液細胞の形態異常や細胞増殖動態検査法等につき, 内外の文献を講読し, 演習する。 (オムニバス方式) (齋藤教授) 検査データや症候から診断に至る過程を模擬症例や論文から英語で学ぶ。英語のリスニングやプレゼンテーションの演習を行い, 英語を用いた論文作成や学会発表の演習を行う。 (齊尾教授) 病理組織学的, 細胞学的な所見について病理形態学的な特徴を検鏡するとともに顕微鏡を用いて演習する。また, 文献を講読しながら病理形態学的な研究の手法や評価法を指導する。
	細胞情報解析学特論 I	齊尾 征直	齊尾 征直 saio@	生体組織の種々の病変特に腫瘍における個々の細胞の形態学的変化を解析するための超微形態所見, 増殖因子, 遺伝子異常との関連について解説するとともにその臨床病理学的検査法について教授する。
	細胞情報解析学特論 II	齋藤 貴之	齋藤 貴之 tsaitoh@	E-ラーニングの医学・医療英語コースを使い, 医学英語を習得し, 研究に必要な英語力を身に付けるように教授する。研究成果を英語で発表するトレーニングも行う。
	公衆保健学・疫学特論	徳舩 富由樹 豊村 暁	徳舩 富由樹 ftokumasu@	(選択可) ①ヒト対象の神経科学研究, 特に非侵襲脳機能計測の基礎を学ぶ。英語論文を各自 1 本を深くまで読み込み, プレゼンテーションを通じて皆で議論する。②世界で重要視されている感染症, 顧みられない感染症の基礎と世界状況を, 英語論文をはじめとする報告から学び, その生物学や対策について議論する
	公衆保健学・疫学演習	徳舩 富由樹 豊村 暁	徳舩 富由樹 ftokumasu@	(選択可) ①脳機能に関する研究論文を読み込み議論する。脳波計測のデザインを話し合い, 脳波を計測する。 ②熱帯病をはじめとする感染症に関する理解を深め, 最新の報告をもとに議論する。

リハビリテーション学特別セミナー	リハビリテーション学領域教務委員, 他非常勤講師	小林 匠 kobataku@	保健学各専攻分野から当該領域の最新の研究を紹介し, 保健学の動向, 進展状態を把握させ, 保健学分野における新たな研究の進め方を学生とともに思考する。
病態障害解析学特論	久田 剛志 山上 徹也 藤田 行雄 (非常勤講師) 横山 知行	久田 剛志 hisadat@	今後多くの疾患がリハビリテーションの対象となってくる現実を踏まえ, 呼吸器, 循環器, 内分泌・代謝, 神経疾患などの各種疾患の病態と発現機序と, それらによって引き起こされる機能障害や能力障害を疾患別・動作別に解析することによって, 障害学的視点からみた病態と障害の解析についての理解を深め, 高度な理学療法技術の確立に寄与する。 (オムニバス方式) (久田教授) 呼吸器, 循環器, 内分泌・代謝, 神経疾患などの病態と発現機序および, 病態解析の基礎となる知識と技術を教授する。さらに, 高齢内部障害者に対する機能・能力障害の解析に関する理解を深める。 (横山教授) 主に循環器疾患の病態解析について教授する。また, 疾患と障害との関連性および機能的制限を中心とした病態障害解析に関する理解を深める。 (山上教授) 主に脳の老化と認知症の病態について教授する。また, 疾患と障害との関連性および機能的制限を中心とした病態障害解析に関する理解を深める。 (藤田教授) 主に脳血管障害の病態解析について教授する。また, 疾患と障害との関連性及び機能的制限を中心とした病態解析に関する理解を深める。
病態障害解析学演習	久田 剛志 山路 雄彦	久田 剛志 hisadat@	障害を引き起こす各種疾患の病態及び機能・能力障害に関する内外の先行研究を考証する。また, 理学療法の視点からみた病態と機能障害との関連や症候障害学的な構造に関する最新の知見を検証して, 実際の研究や教育に応用できる高度な理学療法技術の確立に寄与する。 (久田教授) 呼吸器, 循環器, 内分泌・代謝疾患の病態と機能・能力障害を解析するための文献考証を行う。また, 加齢・老化に伴う疾患・病態と機能・能力障害との関連や QOL を含めた病態障害解析に資する内外の最新知見を演習する。 (山路准教授) 骨・関節疾患の機能障害, 活動制限, 参加制約を解析するための文献考証を行い, 関連分野の内外の最新知見の検証を通じた演習を行う。

機能評価回復学 特論	山路 雄彦	山路 雄彦** tyamaji@	理学療法の対象となる機能障害の構造とその適切な検査及び評価方法について教授する。また、機能・動作障害の基本的な回復メカニズムとその過程を講義し、日常生活活動を含めた障害評価と運動・物理療法による機能回復について理解する。 (山路准教授) 骨・関節疾患などによって引き起こされる機能低下や動作障害の評価方法や機能回復について教授する。
機能評価回復学 演習	山路 雄彦	山路 雄彦** tyamaji@	理学療法の対象となる機能障害や能力障害の構造とその適切な検査法及び評価法に関する内外の先行研究を考証する。また、機能・能力障害の回復と理学療法の効果に関する最新知見について検証して、実際の研究や教育に応用できる高度な理学療法技術を演習する。 (山路准教授) 骨・関節疾患などの評価方法における内外の先行研究を考証して、それらの検査方法の検証を行う。
基礎作業療法学 特論	三井 真一 李 範爽 藤田 行雄	三井 真一 smitsui@	脳機能の基礎的理解，ならびに疾患によって惹起される機能障害の評価に関する方法論を教授する。
基礎作業療法学 演習	藤田 行雄 三井 真一 李 範爽	三井 真一 smitsui@	国内外の文献講読や、実習結果に基づき、脳機能評価に関する研究テーマを設定し各自発表を行う。
運動器障害学特 論	田鹿 毅	田鹿 毅 tajika@	整形外科疾患患者に、運動器リハビリテーションを行うにあたり、必要となる整形外科的疾患の病態、疾患の客観的評価法について指導する。
運動器障害学演 習	田鹿 毅	田鹿 毅 tajika@	整形外科的、運動器疾患の病態と、疾患重症度の客観的評価法、運動器リハビリテーションの有効性とその介入後の臨床評価法につき国内外の論文を学習する。
スポーツ理学療 法学特論	小林 匠	小林 匠 kobataku@	スポーツ外傷・障害の病態およびそれらに対する研究アプローチについて理学療法の視点から解説する。また、スポーツ外傷・障害発生の予防に対する効果的な介入法の確立に関する国内外の動向について学習する。
スポーツ理学療 法学演習	小林 匠	小林 匠 kobataku@	スポーツ外傷・障害の病態およびそれらに対する研究アプローチについて討議する。また、スポーツ外傷・障害発生の予防に対する効果的な介入法の確立について演習を交えながら学習する。

リハビリテーション学領域	地域・国際理学療法学特論	山上 徹也 山路 雄彦 中澤 理恵	山上 徹也 yamagami@	地域における理学療法の実態，地域に暮らす障害者・高齢者の暮らしやニーズ，障害像（老年症候群），さらに，今後の地域理学療法研究の動向などを教授する。また，地域理学療法の対象者が抱える生活障害に対する地域社会の取り組みや対策（介護予防事業等），海外の実情などを教授する。
	地域・国際理学療法学演習	山上 徹也 山路 雄彦	山上 徹也 yamagami@	地域に暮らす障害者・高齢者の生活障害に対する評価・支援に関して，個別・集団での関わりなど，具体例を提示して演習する。また，地域障害者への理学療法士の先駆的な取り組みや在宅障害者のニーズなどについて，高齢者を中心に演習する。また，海外における在宅医療への新しい取り組みなどについても，文献をもとに演習する。
	地域・国際作業療法学特論	菊地 千一郎 田中 浩二 十枝 はるか	菊地 千一郎 senichiro@	地域・国際精神医療のトピックスについて解説する。
	地域・国際作業療法学演習	菊地 千一郎 田中 浩二 十枝 はるか	菊地 千一郎 senichiro@	メンタルヘルスへの実際と現状について，各自の職場などでの経験に基づく発表と実地的な議論を求める。

12. 実践英語

授業タイトル	実践英語
開講言語	日本語・英語
授業形態	オンライン演習科目
授業の目的と概要	指定された e-learning 教材を自学自習することで、身につけるべき英語力の語学的基盤を育成し、国際化対応能力の基礎を築きます。これに加え、e-learning 教材に含まれる模擬試験を受験し、英語力を確認します。
学習目標	実践英語運用能力に必要な基礎的語彙、文法・語法、聴解力と読解力を多彩な内容の音声とテキストを使ったレッスンに取り組むことから、英語運用能力の基礎を身につけます。
履修条件・受講条件	◆ 各自、学習用のパソコンとネットワーク環境を準備してください。
授業計画	◆ 学習内容は大きく分けて次の3つです。 (1) e-learning 教材 (2) 模擬テスト受験 (3) 教員とのやりとり (1) e-learning 教材 ◆ 受講者各自が、自分のパソコン、スマホ、タブレットで e-learning 教材を自習します。 ◆ 「学習スケジュール」は、別途定めます。およそ1週間につき3～4レッスン（文法・リスニング・リーディングの組み合わせ）の割合で学習を進めます。 ◆ 各レッスンは、導入課題・重要項目の解説・メインエクササイズ・レッスンテスト（70%以上で合格）で構成されています。 ◆ e-learning 教材の最終学習期限は別途提示しますので、その時間までに学習を終了させてください。e-learning 教材は、授業期間中のみ利用可能です。 (2) TOEIC 模擬テスト受験 ◆ オンライン受験となります。 (3) 教員とのやりとり ◆ 教員と連絡をとり、ミーティングの予約をしてください。指定された Teams 会議へ入室し、質問をしたり、指導を受けてください。
授業外における学習	週あたり4時間程度の学習時間を要します。
教科書・指定教材	Reallyenglish "Practical English 9" 各自のペースでスケジュールを設定し、個人の英語力や学習目的により、学習方法を最適化しましょう。例えば、リスニングでは再生スピードを変えて聞くことができ、多くの部分で音声とテキストが用意されていますので、シャドーイング練習にも適しています。
参考図書・参考教材	◆ 文法・語法・構文などについては、高校で使った参考書が役立ちます。
成績評価	以下の項目にて評価します。 (1) e-learning 48レッスン以上の合格 (2) TOEIC 模擬試験：TRACKER FOR THE TOEIC Test 1～4の受験 上記の2条件を一つでも満たさない場合は、無条件で不合格となります。 なお、以下の場合は減点対象となります。 ◆ 教材の進捗率が中間チェック実施時までに指定された値に到達していない場合 ◆ 教材の進捗率が学習期間終了時に48レッスン全てを合格していない場合 ◆ e-learning 教材学習時間が極端に短い場合 ◆ 同一レッスンにおけるレッスンテストの得点に極端に差がある場合 ◆ その他減点が必要であると判断された場合 以下の場合は、不合格となります。

	◆ 本人以外による学習が行われた場合 ◆ 不正に入手した解答を用いた場合 ◆ その他甚だしい不正が行われたと判断された場合
出欠席及び受講に関するルール	本科目は、遠隔で実施します。1 週あたり 4 時間程度の学習時間を要します。
コメント	e-learning 学習サイトの動作不全や CLE のトラブルなど、以下の窓口に問い合わせてください。 ◆ e-learning 学習サイト動作不全について（教材運営会社への問い合わせ） E-mail: support@reallyenglish.jp ◆ 学習上の質問について オフィスアワーまたはメールで受け付けます。別途提示します。
特記事項	e-learning 教材の問題・解答・解説を、学生が自分自身の学習のためにパソコン等に保存することは著作権上問題ありませんが、その写真・動画やファイル（ワード等を使って解答を書き写したものも含む）をメールや SNS で第三者に送信・共有することは、著作権侵害などの違法行為となります。教材運営会社から業務妨害で訴えられることも考えられます。十分に注意してください。

13. 問い合わせ先

群馬大学昭和地区事務部学務課大学院係

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目 39 番 22 号（昭和キャンパス）

電話：027-220-7804

メール：kk-mgakumu6@ml.gunma-u.ac.jp

受付時間：平日（月～金）9:00～17:00（土・日・祝日を除く）

Ⅲ 提出関係書類様式

様式は、別途ダウンロードし御使用ください。

- ・ 履修申請書（様式 1）
- ・ 履歴書（様式 2）
- ・ 履修承諾書（様式 3）
- ・ 志望理由書（様式 4）
- ・ 研究歴等報告書（様式 5）
- ・ 入学資格審査申請書, 履歴事項（様式 6-1, 6-2）
- ・ 研究歴・就業歴等報告書（様式 7）



●本要項に関する問合せ先

昭和地区事務部学務課大学院係

電話 027-220-7804

FAX 027-220-7798

Mail kk-mgakumu6@ml.gunma-u.ac.jp